

JR総連 第29回定期大会

憲法改悪を許さず、平和で安心して暮らせる社会をめざし、
抵抗とヒューマンイズムの精神を基底に、
職場から労働運動を展開しよう！

JR総連は6月2日、3日、水上ホテル聚楽において、第29回定期大会を開催した。冒頭急逝された今野東前参議院議員に黙祷を捧げた後、執行部からの提起と質疑が行われ、当面する課題とそれに対する闘う方針が、満場一致で確認された。

参院選の争点は、「改憲阻止」「憲法第96条改悪阻止」。東日本大震災の早期復旧・復興、そして原発事故や、貧困生活に喘ぐ人たちに「寄り添う政治」の実現のためJR総連は「反自民」「反維新」を掲げて闘う。

安倍政権は、「経済・景気対策」を強調しながら、「憲法第96条の改正」を明言しその実現に向けて蠢いている。自民党の改憲草案は、国民の「権利」を「責務」とするなど、人権保障の立憲主義を否定している。本来、憲法とは国家権力を縛り、国民の権利・自由を守るためのものであり、縛られる側が変えようとするのは、憲法の本質を根底から否定する蛮行だ。

政府は4月28日、「主権回復・国際社会復帰を記念する式典」を開催したが、宜野湾市では政府に抗議する1万人規模の集会が開催され、「屈辱の日」として怒りの声をあげている。この式典は、沖縄差別の象徴に他ならない。

日本維新の会共同代表の橋下大阪市長は、慰安婦容認の発言をし、その批判に対し、メディアに責任転嫁している。石原慎太郎共同代表、西村真悟議員などの暴言も続いている。このよう

武井委員長あいさつ

参院選の争点は、「改憲阻止」「憲法第96条改悪阻止」。東日本大震災の早期復旧・復興、そして原発事故や、貧困生活に喘ぐ人たちに「寄り添う政治」の実現のためJR総連は「反自民」「反維新」を掲げて闘う。

安倍政権は、「経済・景気対策」を強調しながら、「憲法第96条の改正」を明言しその実現に向けて蠢いている。自民党の改憲草案は、国民の「権利」を「責務」とするなど、人権保障の立憲主義を否定している。本来、憲法とは国家権力を縛り、国民の権利・自由を守るためのものであり、縛られる側が変えようとするのは、憲法の本質を根底から否定する蛮行だ。

政府は4月28日、「主権回復・国際社会復帰を記念する式典」を開催したが、宜野湾市では政府に抗議する1万人規模の集会が開催され、「屈辱の日」として怒りの声をあげている。この式典は、沖縄差別の象徴に他ならない。

日本維新の会共同代表の橋下大阪市長は、慰安婦容認の発言をし、その批判に対し、メディアに責任転嫁している。石原慎太郎共同代表、西村真悟議員などの暴言も続いている。このよう

な破廉恥な政党を台頭させてはならない。「マイナンバー法」が成立した。プライバシー侵害が、悪用が懸念されるなど、極めて危険だ。

安倍首相が続々と立ち上げた「有識者会議」は、首相の考えに近い委員で構成されている。国民の審判を受けていないメンバーによる国の政策の方向付けは国会審議の軽視であり、議会制民主主義の否定に他ならない。

「アベノミクス効果」では、労働者大衆の所得は増えず、生活は厳しいまま。物価上昇と消費税増税で追い打ちもかかる。安倍首相は「自立」を唱えるが、「自立」できない弱者にこそ手を差し伸べるのが本来の政治だ。生活保護費を抑制する法案も国会に提出されている。生活保護は「命を守る制度」。困窮者が自殺や餓死するような法律では本末転倒だ。また「ブラック企業」も見逃すわけにはいかない。「アベノミクス」は、「弱肉強食」の「新自由主義」政策に他ならない。

安倍政権は「解雇自由化」などにより労働環境を悪化させようとしている。今ほど社会的弱者に寄り添う政治が求められている時はない。当然、労働者に寄り添う労働組合の存在も重要だ。

2013連合春闘では、「1%の配分是正」を掲げつつ、大手先行組合が1月にはベア要求を見送るなど、賃上げムードは一気に潰れた。結果、「ベアゼロ」の壁がより厚くなり、を突破するには至らなかった。一方安倍首相は、経済三団体に対して賃上げ協力を

要請したが、賃上げなどに政治が関与すべきではない。

JR総連各単組は「ベアスアップ」にこだわり、粘り強い交渉と闘いを展開した。「ベアゼロ」は突破できなかったものの、一時金の獲得や諸手当改善などで成果を上げてきた。春闘の伝統と意義を再確認し、2014春闘の再構築に向けて議論を開始する。

TPP参加により日本の農林水産業のみならず、幅広い分野への影響は必至。日本文化や生活習慣の破壊も危惧される。「日本を取り戻す」どころか、米国に売り渡される。

原子力規制委員会は敦賀原発2号機直下の「活断層」を認定した。一方、東海村にある原子力機構の加速器実験施設で放射能漏れ事故が起き、33人が被曝するために排気ファンで屋外に排気するなどの、安全意識の甘さは変わっていない。安倍政権の「原発再稼働」「原発の海外輸出」の姿勢は言語道断。生命と環境を守り、子どもたちが安心して



ITFアジア太平洋地域総会

JR総連の提案に海外労組から多くの賛同の声!!

国際運輸労連(ITF)アジア太平洋地域総会が5月14日、17日、香港で開催されJR総連は2名を派遣した。JR総連は東日本大震災支援への御礼と災害時の安全について発言、JR東労組作成の組合員の証言を取ったDVDを紹介した。DVDについては、インターネット閲覧を可能にするようITFより依頼される等の反響があった。

また、JR総連は「労働組合の権利擁護」「核のない平和な社会を実現する」という2つの動議(方針)の補強を提案。「労働組合の権利擁護」については、JR連合の代表が「我々の考え方とJR総連の考え方に相違があり、この動議に関

しては反対」する旨を発言。ITF執行部は、本部執行委員会預かりにしたいと提案したが、ニュージーランドとマレーシアの組合より「この場で採決すべき」と、JR総連が提出した動議への賛同意見が出た。しかし、この動議の扱いはITF執行委員会で結論を出すこととされ、5月下旬に開催されたITF執行委員会で、この動議は正式に受理された。

「核のない平和な社会を実現する」については、インドの加盟組合が「核のない」という文言削除等の修正を提案。この提案にはJR連合も賛成したが否決。JR総連が提案した原案が賛成多数で採択された。

JR総連は、妨害や弾圧に抗し、強固な国際連帯のもと、ITFと共に闘い続ける。



沖縄戦を追体験! 5連協・沖縄平和研修

5連協・沖縄平和研修が5月11日(土)〜13日(月)の日程で開催され、参加者14名の熱心な視線と協力によって大成功に修了した。

研修は、最終日を除き天候にも恵まれ、一日目の辺野古・普天間飛行場移設予定地でのテント村の激励行動からスタートし、二日目は、前田高地、糸数塔、韓国入慰霊の塔、平和の礎、魂魄の塔、荒崎海岸を研修した。最終日は、ひめゆりの塔と記念資料館を研修し、三日間の行程を修了した。

参加した組合員は、沖縄の地にたち沖縄戦を追体験することを通じて、戦争の悲惨な現実や沖縄の現在の問題(地位協定・基地問題)について立ち止まって考えることができた。

本土では4月28日、「主権回復の日」の式典をおこなったが沖縄では「屈辱の日」として県民大会が開かれた。沖縄は、サンフランシスコ条約によって日本から切り捨てられたのだ。このような現実を私たちは心に刻み、沖縄の人たちの立場にたつて物事を考えていきたいと改めて実感した。

三日間の研修では、平和ガイドとして一沖繩に鉄軌道を作る会の一狩保吉正さんをお願いをした。また、ホテルでの講演を

白梅学徒隊の中山きくさんに、糸数壕の案内を具志堅さんに担当していただいた。心のこもった説明とお話に参加者一同感激すると共に、職場に帰って沖縄平和研修で学び経験をしたことを仲間伝えていくことを全体で確認した。

5連協の春レク大成功!

5月18日、5連協の春レクが鉄研労の準備で開催された。今回は、日本科学未来館で科学を満喫し、月島もんじや屋形船で大交流会という鉄研労らしい企画に、参加した約60名の5連協の組合員と家族は、大満足の日を過ごした。

保障のことなら全労済

全国労働者共済生活協同組合連合会

責任品質

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いただいた組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

いざ!という時、大丈夫ですか? あなたの保険

《取扱商品》

- ▲自動車保険・組合主催行事保険
- ▲ゴルフ保険
- ▲がん保険・医療保険
- ▲JR積立年金
- ▲組合旗・組合パジャマ・ゼッケン
- ▲健康食品・自然食品・お茶・みかん

JR総連・各JR労組賛助団体
(株)鉄道ファミリー

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13
TEL03(3490)3862 JR(058)4114・5

追悼 今野 東 様

参議院議員 田城 郁

去る4月24日、今野東前参議院議員が急逝されました。その日、厚生労働部門会議に出席していた際に、懇意にしている新聞記者から「今野東さんが亡くなられたという情報があります。本当ですか?」というメールが入りました。あまりにも突然すぎて、にわかには信じられない思いで、近くに着席されていた宮城県選出の衆議院議員にお聞きすると、小さく頷かれたことで、今野さんの死を知り得ました。



私は、突然の訃報に涙が止まりませんでした。すぐに会議を退席し震える声を抑えて、JR総連・武井委員長をはじめ関係者に訃報を伝えました。

思い起こせば、国会の中で今野さんはとにかく穏やかな方でした。アナウンサーであり東北弁を巧みに操る東方落語家でありましたが、誰とでもにごやかに接し、普段は物静かで口数はそれほど多くはありませんでした。また、とてもオシャレで、トラッドスタイルのスーツとボタンダウンのシャツを着こなし、その姿はいつみてもスマートで、ガサツな私はあこがれにも似た気持ちを持っていました。

今野さんは「先生」と呼ばれることを殊の外嫌い、権威主義とは対極にいた人でしたが、ひとたび平和憲法、とくに9条に関すること、そして人権問題に関しては論法鋭く持論を展開する頼もしい先輩議員でもありました。民主党法務部門会議で、顔を真っ赤にして法務省の役人と渡り合う今野さんの姿をいまでも思い出します。

私は、改憲が叫ばれるいま、平和憲法を守り、弱者の立場に立ち続けたあなたの政治姿勢を学び、その意思を受け継いで活動していくことをお誓いいたします。

今野さんお疲れ様でした、ありがとうございます。やすらかに眠り下さい。

さらに、駅などの耐震化が遅れている現状も指摘し、国交省に安全防災に対する意識を高めることを求めた。

28日の質問では、3・11の大震災で、東北本線をはじめ多くの交通網が寸断され、被災地での燃料不足が懸念される中、わずか1週間後に、JR貨物のタンク貨車が、日本海側のルートを迂回して石油を現地に届ける事をした事実を説明した上で、鉄道輸送が震災時に果たした役割と今後の国土設計の上での鉄道の役割について、太田国土

民主党田城郁参議院議員は、5月21日と28日の2週にわたって、参議院国土交通委員会で質問に立った。

21日の質問の中では、平成23年度の暴力行為は911件も報告されていることを指摘し、しかもこの数字は氷山の一角ではないかという疑問を投げかけた。

これに対し、太田大臣は、暴力行為の実態調査を実施することを答弁した。このことは、暴力行為根絶のため大きな一歩だといえる。

大臣は、災害時の緊急輸送確保のための多重ルートが必要だと、貨物輸送の重要性を再認識したことを明らかにし、鉄道が再び走ることによる復興の実感についても述べた。また、国交省には、技術的支援や経済的支援などの対策を講じていくことを約束させた。



JR総連推薦候補予定者 (6月15日現在)

北海道	小川 勝也 (民主党)	東京	大河原 雅子 (民主党)
秋田	松浦 大悟 (民主党)	神奈川	牧山 ひろえ (民主党)
宮城	岡崎 トミ子 (民主党)	新潟	森 ゆうこ (生活の党)
山形	舟山 康江 (みどりの風)	長野	羽田 雄一郎 (民主党)
福島	金子 恵美 (民主党)	愛知	平山 誠 (みどりの風)
群馬	加賀屋 富士子 (民主党)	広島	佐藤 浩治 (生活の党)
栃木	谷 博之 (民主党)		

参議院選挙は必ず投票に行こう!